

る。発見者神田淳・羽根井良江両氏の再三にわたる調査によって確認することができた。木影濃いところにはえるのでコカゲランと呼ぶことにした。

高さ 30 cm ばかりの細い茎が直立し、上部に15花ほどをつけるが、採集時、すでに最後の花が咲いていた。地下には狭長楕円体の地下茎が横たわりその先端から茎が立つ。無葉緑で菌根である。花は長さ 5 mm, 短い花梗で側向してつき、その形態はマメの花を思わせる (Figs. 1-2)。背がく片は直立するが側がく片はそれと直向して唇弁の下方に突出し、いずれも倒卵状で先端はやや鈍頭、側花弁は背がく片の左右に展開して広倒卵形で円頭、その間に蕊柱をはさみ、蕊柱腹面に鉤状に突出した2突起が全面にみえる。唇弁は側がく片にはさまれ且つそれよりも蕊柱と平行に突出し、しかも両縁がとくに強く反曲している。花色はほとんど白色に近い淡もも色である。

このランがタイ国に産する *Didymoplexiella siamensis* と決定したのはタイ国の図と比較してまことによく一致するので同一種としたのであるが、タイと屋久島とに共通な種であることは分布上著しい。これはラン科は種子が小さく風によく飛ぶので、散布が存外に容易且つ遠距離に及ぶことを示すものであろうし、その点でシダ類の分布と似かよった点も十分に考えられる。

Didymoplexiella siamensis (Rolfe) Seidenfaden in Bot. Tidssk. 67: 99 (1972)
—*Leucolaena siamensis* Rolfe ex Downie, Kew Bull. 1925: 416 (1925)— Seidenfaden et Smitinand, Orchids of Thailand 1: 73 f. 54 (1959)

Nom. Jap. **Kokage-ran** (nom. nov.)

Hab. Isl. Yakushima ca. 100 m alt., laurisylvatica (J. Kanda et Y. Hanei, Jun. 16, 1976)

New to flora of Japan.

Distr. Thailand.

終りに当り採集の上、資料及び写真をこころよく提供された神田淳氏に厚くお礼を申し上げます。
(進化生物学研究所)

□Ettlinger, D.M.T.: **British and Irish orchids, a field guide** pp. 141. pls. 12. The Macmillan Press LTD (London) £ 4.95 (3920円) 1976. 英国及びアイルランド原産のラン科51種について、左頁に全形の写真を、右頁に習性と分布、花期、野外での主な特徴、変異性に、英国の地図に記した分布図を添えている。そしてこれらのはじめに、種、亜種及び天然雑種の一覧表と、花季の比較表を出し、末尾にカラー写真で花を示し、さらにこれらのランのさがし方と、写真のとり方とを述べている。恐らく、野外の花木に対するガイドブックとして、最高の到達点を示すものかと思われる。*Spiranthes romanazoffiana* の分布が、稀れとはいえ北アイルランドやスコットランドに拡がっているなど専門家にも参考になる。
(前川文夫)